

保育現場における玩具の役割と有用性

－ 積み木に着目して －

学籍番号	229213
氏名	田中 祐太
大学院主指導教員	中橋 美穂
大学院副指導教員	平井 美幸

1. 背景

1.1 問題の所在

本研究の目的は、玩具や道具、素材等、様々な「物」が配置された保育室内において、玩具が持つ役割や、幼児の成長発達を促す力を明確にすることである。幼稚園における物的環境には、子どもの身の回りにある様々な物が含まれるが、最も身近な物の一つが玩具である。玩具は、子どもの成長、発達に欠かせない大切な物的環境の一つであるため、保育者は自身の感覚や、それぞれの経験を元に玩具を取り入れるのではなく、玩具がもつ特徴や、子どもの心身の発達にとっての有用性等を理解した上で、保育環境に玩具を取り入れる必要がある。しかし、保育者には子どもの遊びの姿を環境とのかかわりで見直そうとする姿勢が成立しにくいといった指摘（河邊 2006）等があることに加え、自身の実践を振り返った際にも、たとえ保育環境に目を向けたとしても、そこで使用されていた玩具の役割や有用性を意識した見直しができているとは言い切れない。

1.2 目的と方法

目的達成のために二つの調査を行う。まず、研究協力園の保育室内に用意されているものを「玩具」と「玩具化された玩具」に区別し、各学年の保育室内にはどのような玩具が用意されているのかを調査し、現状の把握を行う。次に、実際に子どもがどのように玩具を扱っているのかを調査するため、積み木に焦点をあてて観察を行った。そこで得られたビデオ記録や観察記録から事例を整理し、玩具の持つ特徴が、子どもの遊びにどう影響するのかを考察する。

2. 結果

2.1 幼稚園に用意された玩具の現状と学年別の違い

保育室内に用意されているものを、玩具と玩具化された玩具に区別し、玩具の定義に対応させて整理していく中で、見えてきた特徴が3つある。まず、「ままごと遊び」と「積み木遊び」に使用される玩具が三学年に共通して用意されていたこと。次に、ままごとコーナーに置かれたビー玉のように、本来玩具が持つ機能や役割が子どもの見立て方や工夫によって、変化している可能性があること。そして、子どもの遊びは玩具そのものだけではなく、遊んでいる場所の特徴からも強く影響を受けている可能性があることである。以上のことから、保育現場における玩具が子どもの遊びの中でどのような役割を担っているのかを調査する際には、遊ばれて

いる場の特徴と、その場と玩具を選択した保育者の意図にも留意したうえで、子どもの遊びを観察する必要がある。

2.2 積み木が子どもの遊びに与える影響についての考察

自由遊びの時間帯に積み木を使った子どもの遊びの様子の観察・記録を行い、そこで得られた記録から事例を整理、考察を行った。その結果、見えてきた積み木の特徴は4つある。

1つ目に積み木が持つ特徴が、子どもに、より細かな手指の操作を促していること。2つ目に積み木が持つ特徴が、遊び手である子どもに他者との関わりを促していること。3つ目に積み木はいかなる場面でも常に扱い方の選択肢を遊び手に提示していること。4つ目に積み木は子どもの遊びの変化に柔軟に対応できることである。

積み木は、一つ一つの形状が抽象的であるため、使用目的の曖昧性が高く、この曖昧性により、子どもの遊びの変化に柔軟に対応できるといえる。そのため、保育者は子どもが遊ぶ様子を観察し、遊びの展開に応じて環境を変化させることができるように、使用する積み木の数や遊び環境、また一緒に組み合わせられる玩具等について、あらかじめ想定、検討しておくことは、環境作りをするうえで必要なことであるといえる。

4. 結論と今後の課題

4.1 積み木が持つ特性

調査の結果、積み木には遊びの自由と制約があり、子どもはその制約による不自由を、他の玩具や素材を使って工夫することで補い、遊びを楽しんでいることが推察された。そのため、積み木遊びを行うための環境を作る際には、子どもが工夫を楽しめるだけの数や種類の玩具、素材を、保育者が用意しておくことが必要であると考えられることができる。

4.2 環境の特性と保育者の意図性の関係

保育者の意図が反映された環境は、子どもの遊びや玩具の使い方に影響を与え、より主体性のある遊びを促すものであるといえる。子どもが遊ぶ保育環境は、そこにある玩具がもつ特性に加えて、環境の特性と、そこを構成した保育者の意図性とがかかわりあうことで、保育環境は構成されていくと考えることができる。

4.3 今後の課題

本研究の課題として3点挙げられる。1点目に本研究は年長児を対象にしており、使用する子どもの学年や月齢によって、玩具の扱われ方に変化があるのかの検証が出来ていない。2点目に、積み木を扱う子どもの観察と分析によって、環境の特性が子どもの玩具の扱い方に影響があることが示唆されたが、保育室内にある積み木以外の玩具に、どのような特徴があるのかの調査が出来ていない。3点目に、子どもによって玩具化された玩具がそれぞれどのような特徴を持ち、子どもの遊びに影響を与えているのかの調査も未だ出来ておらず、積み木に見られたような特徴がこれらの玩具に当てはまるのかも不透明である。

今後はこれらの点に考慮し、研究を継続して取り組んでいく。